



寺子屋、福先生のつぶやき  
悪口を封じて“いじめ”をなくそう

家庭教育支援ラボ寺子屋「福」主宰 龍福 史朗

10



悪口を抑え、  
集団の雰囲気改善する

『小6女子児童がいじめを苦に自殺』これは教育に携わる者や同年代の子を持つ親にとってあまりにもショッキングな事件です。このような悲劇を二度と起こさないためには、その根本的要因である陰湿ないじめを撲滅しなければなりません。しかし、いじめの要因は複雑多岐にわたり、その根絶は極めて困難です。かけ声や精神論だけでは決して無くなりません。差し当たって、いじめの大きな要因になる“悪口”を禁止することから始めましょう。本人を前にしてはもちろん、人前では絶対に口にしないよう我慢する習慣を身に付けることで、悪口の顕在化を抑え、集団の雰囲気改善しましょう。

当然のことながら、悪口を根絶することが一番望ましいことですが、最近SNSなどによる陰湿な発言が増えていきます。このような潜在的で見えにくい悪口こそが、より陰湿ないじめにつながる最大の要因であることは疑う余地がありません。このことについては別途、稿を改めて考えてみたいと思います。

本稿では、前述したように「悪口を抑え、集団の雰囲気改善すること」を主たる目的とした指導の実際例(表1)を左記に示します。ぜひ、実践していただきたいと思えます。

安心安全な世界を実現するには

前述の指導の実際例を半年間、根強く実践すれば、悪口は確実に減っていきます。悪口が減れば集団の雰囲気は格段に変化し、思いやりのあふれる集団に近づきます。人間誰しも安心安全な世界が一番心地よいものです。子どもたちが安心して過ごせる場所であれば、いじめの発生を最小限に抑えることができます。指導者と集団構成員との信頼関係さえあれば、こうした望ましい集団をつくり出すことは、そんなに難しいことはありません。

もし読者の中に、今、いじめに苦しんでいる方、または所属する集団も家庭も、そうした望ましい環境にない方がいましたら信頼できる友人、知人、先生などに相談するか、行政の相談機関に助けを求めることも大切です。絶対に一人で考え込んではいけないことを申し添えます。

前回、思いやりにあふれる心こそ、平和で穏やかな世界の源泉であることをお話ししました。また、安心安全が幸福の重要な基準であることにも触れました。「人を傷つける言動は絶対に許さない」との固い決意で子育てに向き合うことが、周りの環境を変え、安心安全な世界の実現に寄与すると確信します。

表1

1 年齢に応じた内容で“悪口は相手の心を傷つける”との認識をわが子や集団に植え付けましょう。この際、被害者の立場に立って考えさせることが大切です。

2 家庭や集団の決まりとして悪口を禁止し、悪口を言われて嫌な思いをしたら、必ず何らかの方法で親や指導者に知らせるよう約束します。もちろん、この際、指導者が集団から信頼されていることが前提となります。

3 事案が発生したら、当事者双方から聞き取りを行い、指導者が適切な指導をする。

『悪口を抑え、集団の雰囲気改善する』指導の実際例

家庭教育支援ラボ  
寺子屋「福」

宇都宮市 滝の原 1-1-1  
株式会社ダイワ内  
Tel:028-633-4534  
http://kosodateclub753.com

